

・高炉セメント、14暦年販売9%減に

2014暦年のセメント国内販売は前年比0.7%減の4585万4千トﾝで、うち普通ポルトランドセメントは70.3%の3225万4千トﾝ(前年比1.8%増)、高炉セメントは21.4%の979万6千トﾝ(9.0%減)だった。セメント協会の集計。高炉セメントは13暦年に3年ぶりに1000万トﾝ台を回復したが、東日本大震災や近畿・九州での水害などの復旧工事が一巡して再び1000万トﾝを割り込んだ。13暦年に比べ構成比は普通ポルトが1.7ポイントアップし、高炉セメントは1.9ポイント低下した。

・セメント工場、14暦年もフル稼働

2014暦年のセメント生産量(クリンカ出荷含む)は6190万8千トﾝで前年比0.3%増加し、クリンカ生産量は5208万2千トﾝ(エコセメント用除く)で1.1%増えた。セメント協会の集計。14年4月1日現在の生産能力を基にしたキルン稼働率は93.1%となり、前年より0.6ポイント低下したものの3年連続で90%超となった。国内需要は停滞ぎみとなったが、高炉セメントの販売量が大きく落ち込んだ一方で普通ポルトランドセメントの販売量は堅調。輸出の引き合いは旺盛で、セメント生産量よりもクリンカ生産量の伸び率が上回った。主要工場は引き続きフル稼働だった。

・建築学会、16年ぶり調合設計・品質管理指針改定

日本建築学会材料施工委員会(委員長・本橋健司芝浦工業大学教授)の鉄筋コンクリート工事運営委員会は20日、『コンクリートの調合設計指針・同解説』および『コンクリートの品質管理指針・同解説』の第2次改定版を刊行した。両指針はそれぞれ94年、91年に制定されて以降、JASS5(鉄筋コンクリート工事標準仕様書)が大改定されるたびに改定されており、今回は時間がかかったが09年のJASS5大改定に対応したもので16年ぶりの改定。最近の研究成果を反映したほか、調合設計指針では従来と異なる新しい調合計算の手順(「委員会案」)を提示している。品質管理指針では「レディーミクストコンクリート工場の選定」に関して、本文に「『○適マーク』の使用を承認された工場であることが望ましい」との記述を入れた。

・セメント3社の14年4～12月期

太平洋セメント、住友大阪セメント、三菱マテリアル3社の2014年4～12月期連結決算が10日発表された。太平洋は営業・経常減益、住友大阪は営業減益で、三菱マテのセメント事業も営業・経常減益。3日までに発表のあった宇部興産、トクヤマを含めてセメント主要5社の同期業績は国内セメント、生コンクリートの販売数量減が響いている。15年度のセメント国内需要見通しも今年度並みとの見方が強く、石炭価格の動向も不透明。関係生コン会社は骨材の値上がりもあって厳しい状況にある。セメント、生コンの市況是正がセメント各社の業績改善に不可欠だ。

・三菱マテ、次期社長に竹内副社長

三菱マテリアルは10日、4月1日付で竹内章副社長が社長に昇格することを発表した。矢尾宏社長は代表取締役会長に就任する。同日開催した社長交代記者会見で竹内次期社長は矢尾社長が取り組んできたグループの経営基盤強化、成長戦略、安全・CSR推進を継承・発展強化し、昨年5月発表の長期経営方針と中期経営計画達成に努めていく考えを示した。さらに「今年12月1日で三菱マテリアル誕生25周年を迎える節目の年に社長を拝命し、大変光栄であるとともに責任の重さを痛感している。いかなる荒波、難題が待ち構えていようと、課せられた使命を全うすべく全身全霊をささげて取り組んでいく覚悟である」と決意を述べた。

・14暦年セメント内需、4642万トﾝ

財務省貿易統計による2014暦年のセメント輸入量がこのほどまとまり、13暦年に比べ28.2%減の56万7千トﾝとなった。この結果、14暦年のセメント国内需要は4642万1千トﾝで1.2%減となり、4年ぶりに減少した。

・宇部興産とトクヤマの14年4～12月期

宇部興産とトクヤマの2014年4～12月期連結決算が3日までにまとまった。宇部興産はナイロン繊維・樹脂原料のカプロラクタムと電池材料関連事業が厳しい状況にあるものの、セメント・生コンクリートなどの建設資材は連結子会社の宇部マテリアルズを含む石灰石関連製品が堅調で、前年同期は操業を停止していたIPP発電設備が昨年10月に稼働を再開したこと、営業外損益の改善で経常増益となった。トクヤマは14年4～9月期時点で行ったマレーシアの多結晶シリコン製造設備(第1期)減損損失計上で純損益は赤字となり、セメント部門が内需停滞の影響を受けたものの、各事業とも堅調で営業・経常増益となっている。両社とも通期業績予想は前回発表(宇部興産は10月16日、トクヤマは同月31日)を据え置いており、いずれも営業・経常増益を見込んでいる。

・中国のセメント、14年の生産量伸び鈍化

中国国家统计局が発表した14年の同国セメント生産量は前年比2.1%増の24億6557万トﾝとなった。同統計による20億トﾝ超の生産量は4年連続だが、前年伸び率9.6%を大幅に下回った。前年割れとなる月もあり減速感が鮮明だ。これまでセメント生産量は固定資産投資(建築投資や設備工事費などの合計)の伸びと連動して増え続けてきたが、14年は固定資産投資が前年比15.7%増と高い伸びを維持したもののセメント生産量の伸び率は低下した。

・下関市道にカラー1DAY PAVE

山口県下関市発注の「阿弥陀寺町11号線観光施設周辺道路整備工事」で早期交通開放型コンクリート舗装「1DAY PAVE」が採用され、昨年12月9日、19日、今年1月16日の3回に分けて施工が行われた。現場は1895年に日清講和条約(下関条約)の調印が行われた老舗料理店「春帆楼」前の市道で、人通りの多い観光地であることから道路の早期開放が求められた。コンクリートは74㎡使用。景観に配慮し、顔料で春帆楼の屋根と同じ黄色に色づけして打設された。

・セメント輸出、14年度は1000万トﾝ超え?

2014暦年のセメント輸出量は910万8千トﾝで前年比3.9%増加した。08暦年以來6年ぶりに前年実績を上回った。セメント協会の集計。1～3月の国内需要の動向にもよるが、年度トータルでは3年ぶりに1000万トﾝを超える可能性もある。国内需要が停滞している一方で、輸出の引き合いは旺盛。円安に加えフレートも下がってきており、輸出価格もここ数年は上昇基調で、輸出各社の収益にも寄与している。2020年以降の需要低迷への備えとして、主要セメント各社は輸出市場を引き続き確保したい意向で、15年度以降もセメント需要堅調が見込まれる東南アジアを中心に輸出量は高い水準で推移すると見られる。

・14暦年セメントの生コン転化率0.1ポイント低下

2014暦年のセメント国内販売量4585万4千トﾝ(前年比0.7%減)のうち、生コンクリート向けは3311万8千トﾝで0.9%減少し、セメント製品向けは2.1%増えて607万9千トﾝだった。セメント協会の集計。構成比は生コン向けが72.2%で13暦年に比べ0.1ポイント低下し、製品向けは13.3%で0.4ポイント上がった。荷姿別はバラが0.6%減の4464万8千トﾝ、包装品(袋物)は4.3%減の120万6千トﾝとなり、バラの比率が0.1ポイント上がって97.4%となった。

・14暦年全国生コン出荷、1.6%減の9592万㎡

14暦年の全国生コンクリート出荷量は、全生工組連調べによると前年比1.6%減の9591万8千㎡で4年ぶりのマイナスとなった。官公需は1.4%減の4219万7千㎡となり3年ぶりの減少、民需も1.7%減の5372万1千㎡で4年ぶりに下回った。「年度については、このほど見直した需要想定(9720万㎡)と暦年出荷実績の間ぐらいになるのではないか(全生連)としている。官公需と民需の構成比は、44.0対56.0。